

ミニトマト出荷最盛



7月下旬、JA管内のミニトマトの出荷が最盛を迎えました。平賀園芸センターでは1日あたりの入庫数量が約14トとなり、8月上旬まで続きました。

同センターで販売を担当する職員は「近年、農業生産に必要なランニングコストが軒並み上昇しており、採算性の悪化から生産意欲の低下が懸念されている。当JAのミニトマトの品質の良さが、各市場から高い評価をいただいていることを強みとし、コスト増分を転嫁できる適正な販売単価を確保することで、生産意欲向上に努めたい」と話しました。

JAの令和7年産作付けは約16%で、生産者は145人。11月末までに約1000トの出荷を計画しており、販売金額8億円以上を目指します。



ミニトマトを運び込む生産者



入庫されたミニトマト

園地巡回で生育確認



降雨不足により干ばつが懸念されていることから、JAでは役職員が園地巡回を行い、農作物の生育確認を行っています。

7月31日には、平賀東支店管内葛川地区の高冷地野菜を栽培しているほ場を訪問し、生育を確認。葛川地区は冷涼な気候で、朝露が降りることから降雨不足の影響などは見られず、順調に生育していました。

園地巡回は引き続き行い、りんごや水稻、野菜の生育を確認します。



野菜の生育を確認する奈良寧組合長ら

朝市で盆の大売り出し



黒石地区のフレッシュ朝市の会は、8月11日から13日にかけて、盆の大売り出しを開きました。

大売り出しでは、盆用の花やスイカ、メロン、ナスなど旬の農作物がずらりと並び、来場者は目当ての商品を購入していました。

来場者は「今年も盆用の花を購入するため早起きして並んだ。購入できてうれしい」と笑顔で話しました。



盆用の花を選ぶ来場者